

- 日高地域は、県内のウメ栽培面積の約4割を占めるウメ産地であるが、ウメ干需要の低迷と白干梅及び青梅の価格低下のため、**他品目との複合経営の推進や需要開拓に向けた高付加価値化が課題。**
- このため農業水産振興課では、野菜等の新たな品目の導入を提案し、**梅との複合経営を推進するとともに、新品種「露茜」の安定生産技術の確立と実需者への安定供給等を進める。**
- 平成29年には、ウメを中心とした**複合経営農家の増加及びウメ新品種「露茜」の栽培面積4ha増加を、目標とする。**

## 具体的な成果

## 普及指導員の活動

## 1 複合経営農家の増加

■ 梅農家の経営安定のため、複合経営による新規品目の導入推進。

## 新たな品目導入農家数

0戸 → 43戸(H27末現在)

## 2 高付加価値化による需要の拡大

■ 新品種「露茜」の生産及び追熟技術が確立され、梅干以外の新たな用途を開拓。

## ・「露茜」栽培面積

1ha → 2.5ha(H27末現在)

## ・「露茜」導入農家

33戸(出荷農家数、H27)



「露茜」果実



「露茜」加工品の一部

平成27年

■ 複合経営有望候補品目の検討、実践モデル農家から経営状況を調査・把握。  
■ 「露茜」の追熟処理技術の確立。

平成28年

■ 有望候補品目の選定及び実証展示ほの設置。  
■ 「露茜」追熟処理技術の実証及び栽培面積拡大の推進。

平成29年

■ 有望品目の栽培講習会の開催。  
■ 「露茜」栽培面積拡大の推進。

## 普及指導員だからできたこと

・ 農業水産振興課、県果樹試験場うめ研究所、JA紀州と役割分担を明確に、**H27年度産地ブランド発掘事業を活用しながら実需者を巻き込んだ需要の開拓と安定生産技術の確立・普及を一体的に推進。**

・ **ウメの複合経営品目の栽培指導は農業水産振興課野菜担当の普及指導員が、「露茜」の栽培技術指導は農業水産振興課の果樹担当の普及指導員が**県うめ研究所、JAと連携しながら実施。

# 梅の高付加価値化と複合経営の推進

活動期間：平成27年度～29年度

## 1. 取組の背景

みなべ町は県内の梅栽培面積の約4割を占める梅産地であるが、梅干し需要の低迷と白干し梅及び青梅の価格低迷のため、梅農家の経営は厳しい状況にある。そこで野菜等の新たな品目の導入により梅との複合経営を推進するとともに、梅の需要開拓に向けて新品種「露茜」の安定生産技術の確立により実需者へ安定的に供給できる産地づくり、摘心摘葉処理による紅南高の生産拡大、梅干し以外の加工品の開発等の高付加価値化を進め、梅農家の経営を安定的かつ高収益な体質に改善し、漬け梅以外の付加価値の高い梅商品の開発・生産拡大により収益性の高い梅産地を目指す。

## 2. 活動内容（詳細）

### （1）複合経営対策

#### ア 複合経営有望品目の検討

みなべ町内農家の複合経営に対する意向調査を実施し、JAとの協力により野菜等の新たな導入品目を検討した。また、農業試験場との連携により複合経営に関する現地でのヒアリングを実施した。

### （2）高付加価値化対策

#### ア 梅干用途以外の有望な新品種の導入促進

みなべ町内に「露茜」栽培展示ほを設置し、苗木・高接ぎ別の着果状況・収量調査を行うとともに、切り返しせん定の違いによる着果及び新梢発生試験、さらに追熟処理と輸送の影響調査、「南高」完熟果実による追熟下限数量試験を行い、栽培・出荷技術実証を実施した。

#### イ 紅南高生産の推進

紅南高の生産拡大のため、摘心摘葉処理技術実証や講習会の開催するとともに、摘心摘葉処理実施モデル農家の事例調査・分析を行った。

#### ウ 梅の新加工用途の検討

新たな加工用途の開発のため、みなべ町農業振興協議会女性グループによる新たな加工品の試作や新商品の開発に向けて商品化アドバイザーによる研修を開催した。



### 3. 具体的な成果（詳細）

#### （1）複合経営対策

複合経営についてはウメ農家経営の現状と課題の把握ができ、現状の漬け梅生産を維持したままでは新たな品目や新技術の導入を行うための作業時間が確保されないことが読み取れた。また、JAと量販店との契約販売品目として、キャベツ・なばなを導入・検討した。

#### （2）高付加価値化対策

##### ア 梅干用途以外の有望な新品種（露茜）の導入促進

◆苗木・高接ぎ別の着果状況・収量を調査したところ、着果の時点でも多い状況ではなく、最終的には前年を下回った。

表1. 苗木・高接ぎ別の着果状況

苗木での着果率 (%)	4.6	(前年比122)
高接ぎ枝での着果率 (%)	2.7	(前年比73)

\*着果率は着果数を総着蕾数で除した率

表2. 苗木・高接ぎ別の収量

苗木での収量 (kg)	6.8	(前年比82)
高接ぎ枝での収量 (kg)	25.8	(前年比75)

\*収量は1樹当たり収穫時果実の重量

◆切り返しせん定の違いによる着果及び新梢発生試験の結果、以下のことが考察された。

- ・1、2年枝の着果数が多く3年枝の着果数が少ないので、収穫量を確保するためには、1年枝を残した切り返し方法が有効である。
- ・1年枝を残した切り返し方法は新梢発生には最も有効であるが、枝が横方向に伸長・下垂し樹勢低下や3年枝以降の着果数が減少することから、①枝の途中から発生する新梢を予備枝とする、②2年枝又は3年枝まで切り返し新梢の発生を促す必要がある。

◆追熟処理と輸送の影響を調査した結果、エチレン剤の投入量が多い7コンテナ×2段積み区の方が着色・熟度の進行が早いことが分かった。また、実需者へは宅配便で輸送している間に追熟が進み、到着時には十分なレベルの着色・熟度が得られた。

表3. 追熟処理・輸送条件による果実品質調査結果

積み方	段位置	着色 ※1			熟度 ※2		
		処理2日後 (処理1回目)	処理3日後 (処理2回目)	処理後5日後 (実需者到着時)	処理2日後 (処理1回目)	処理3日後 (処理2回目)	処理後5日後 (実需者到着時)
7コンテナ×2段積み		2.0	2.8	3.0	1.8	2.6	2.9
	上段	1.9	2.7	3.0	1.9	2.5	2.9
	下段	2.4	2.9	3.0	1.7	2.7	3.0
5コンテナ×2段積み		1.2	2.9	3.0	1.3	2.6	3.0
	上段	1.0	3.0	3.0	1.4	2.8	3.0
	下段	1.4	2.8	-	1.2	2.4	-

※1: 果実の着色度合いを1—3の3段階で選別 (青 1・・2・・3 赤)

※2: 果実の熟度を1—3の3段階で選別 (未熟 1・・2・・3 適熟)

◆「南高」完熟果実による追熟下限数量試験の結果、過度に少量の「南高」完熟果による追熟処理では果実の着色が十分得られないことがわかった。「南高」完熟果を用いた追熟処理で、安定的に着色を行うには・十分な果実量、・適切な熟度の収穫果実で追熟処

理する必要がある。

表4. 「南高」完熟果による追熟処理結果

処理区	果実重量			果実品質			
	処理前 (kg)	処理後 (kg)	歩留まり (%)	完全着色果 重量 (kg)	不完全着色 果重量 (kg)	腐敗果重量 (kg)	完全着色果 率 (%)
① 南高0.1：露茜20区*	20.1	19.8	98.5	17.5	2.0	0.3	88.4
② 南高0.05：露茜20区**	20.1	19.8	98.5	11.1	8.3	0.4	56.2
③ エチレン発生剤***	20.2	19.8	98.0	18.7	0.7	0.3	94.9

\*南高0.1：露茜20区は露茜20kgに対して南高完熟果100gを入れて追熟処理

\*\*南高0.05：露茜20区は露茜20kgに対して南高完熟果50gを入れて追熟処理

\*\*\*エチレン発生剤は露茜20kgに対してエチレン発生剤を入れて追熟処理

なお、追熟処理とは2日間密封後開放しさらに2日間追熟

## イ 紅南高生産の推進

みなべ町内で延べ8箇所において摘心・摘葉講習会を開催したところ、梅生産農家延べ150名の参加があった。また、摘心・摘葉処理実施農家の作業時期・作業時間・出荷量・単価を聞き取り調査した結果、4～5月にかけて行う摘心摘葉処理に掛かる労力は作業時間で10aあたりに換算すると164時間掛かることがわかった。なお、出荷物1ケース(10kg)あたりの単価は通常の青梅より3.4倍の価格で販売された。

## ウ 梅の新加工用途の検討

みなべ町農業振興協議会の女性チームにおいて、青梅のピューレを使用した新たな加工品候補として、グミ、梅餅、ギモーヴを試作・検討した結果、ギモーヴの商品化に向けて商品パッケージやデコレーション等に対してパッケージデザイナーから指導を受けた。

## 4. 農家等からの評価・コメント（みなべ町 山本茂氏）

露茜ではうめ研究所との連携により整枝せん定・追熟技術の確立に向けて前進することができた。今後さらに実需者からの要望に応えるべく増産に向けた技術普及・課題解決に取り組む、「南高」以外での新品目として儲かるモデル作りを期待する。

## 5. 普及指導員のコメント（日高振興局地域振興部農業振興課・主任 川村 実）

「露茜」についてはうめ研究所の技術開発の進捗具合を掴み、また現場での技術普及・課題抽出を行うという中核な位置で、産地化に向けた取り組むべき課題把握とその解決策を実行できた。複合経営については現状把握に時間を要したため、効果的な働きかけができなかった。

## 6. 現状・今後の展開等

複合経営については関係機関の協力のもとで「労力配分の最適化」「新品目の導入」「収益性の確保」のプロセス化を図る。「露茜」についてはうめ研究所で取りまとめた栽培マニュアルを活用し新規栽培者を増やすとともに早期の反収アップを図り実需者に対して安定供給できる産地を目指す。紅南高については青採り栽培農家をターゲットに摘心摘葉処理技術を推進する。なお、摘心処理技術のみでも安定着果・せん定作業の軽減につながることから技術導入の拡大を図る。新たな加工用途については試作品の仕上げを進めるとともに試験的な販売にも取り組み、他の加工グループへの波及を図る。